

夢みるこども基金だより

No. 3

平成10年
10月1日

発行：夢みるこども基金事務局

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-6赤坂Sビル2F ☎092-751-0021 FAX092-751-0249



'98 夢みるこどもキャンペーン 世界へとどけ「夢の放送局」 福岡で開催

多くの市民でにぎわった「夢の放送局」(キャナルシティ博多・サンプラザで)

歯の金属冠リサイクルでこどもたちの夢をかなえ、福祉にも役立つ「夢みるこどもキャンペーン」(主催・夢みるこども基金)理事長・中原爽日本歯科医師会会長の四回目のイベントが七月二十四、二十五の両日、福岡市内で開かれました。

このイベントは、日本歯科医師会、日本航空(株)、日本通運(株)、(株)ジーシーなどが協力・協賛、「こども会議」のこどもたちを中心に、父兄ら約三百人が参加しました。

初日の二十四日は、福岡市東区の休暇村・志賀島に集合して、親睦を深めました。

翌日の二十五日は朝からあいにくの雨。それでも福岡市の天神を、基金の理事でもあるアグネス・チャンさんとともに、「夢の放送局」を開局したキャナルシティ博多まで歩くラブウォーク。街路に落ちているごみを拾ったり、募金を呼びかけて、街ゆく人たちに訴えました。四回目にして、初めて街頭に飛び出した「夢みるこども基金」のイベント。それだけにアグネス・チャンさんも大張りきり。特別に参加してくれた、国立療養所筑後病院に筋ジストロフィーという難病で入院中の少年バンド「G A O H (ガオー)」のメンバーとともに、キャンペーンのために吹き込まれた、イメージソングの「ドント・ストップ・マイ・ドリーム」と「傘の中の夢たちへ」を明るく歌ってくれました。

夢みるこども基金理事長
日本歯科医師会会長



中原 爽

全国の歯科医院の方々のご協力で活動を展開している「夢みるこどもキャンペーン」は毎年、成功を続け五年目に入りました。基金の運営に携わる役員、スタッフを代表して御礼を申し上げます。

一九九四年、歯の金属冠リサイクルでこどもたちの夢をかなえ、併せて福祉にも役立てようとの願いからスタートしたキャンペーンの趣旨に賛同し、財源になる使い古しの金属冠を送って頂く歯科医院は発足時の七〇〇件から一六〇〇件に膨らみました。

この浄財をもとに、毎年、正月に全国のこどもたちから「かなえたい夢」を作文やイラストで募集。春休みに「こども会議」を開いて、実現する夢を決め、夏休みに夢を実現するイベントを開いています。

一回目は阪神大震災で両親を亡くした子を励ます「阿蘇こども出会の里」、二回目は難病の筋ジストロフィーの少年バンドのコンサート「阿蘇こどもみどり村」を熊本県阿蘇で開催。三回目は昨年場所を福岡市に移し、基金の初めての海外事業としてバンングラデシュ・カラムデイ村に「夢みるこども基金学校」をつくり、プレゼントすることにし、現地のこどもたちや教師を招き、建設費を贈り、交流しました。

今年も、これまでどちらかといえ

市民の協力を訴え

雨の中をラブウォーク

ラブウォークは「夢の放送局」の開始に先立ち、七月二十五日午前中、福岡市都心部の天神ーキャナルシティ間約3kmで行われました。このラブウォークは参加者全員（市民の方々も含む）と一緒に歩くことを考え、現在失われつつある連帯感を育むことを目的としていました。また歩くことが少なくなった今日、体力増進を図る意味でもよい機会ではないかと考えておりました。

午前十時四十五分から、同市中央区天神の福岡市役所前の「ふれあい広場」で開かれた出発式には、小雨にもかかわらず、前夜、同市東区の志賀島で一泊した「こども会議」の子供たち十八人、付き添いの家族、夢みるこども基金の役員、ボランティア、それに「アジア太平洋こども会議・イン福岡」に参加したバンングラデシュとラオスの子供たち、市民の方々計三〇〇人が参加しました。

持山彌之助・夢みるこども基金理事長代行（福岡県歯科医師会会長）が「今まで、内輪だけでやってきたキャンペーンが四回目にして初めて街頭に繰り出す画期的な日。このキャンペーンの素晴らしさを多くの人たちに知ってもらい、キャンペーンの輪をさらに広げましょう」と挨拶。基金理事のアグネス・チャンさんの「さあ！元気で歩きましょう。レッツ・ゴー！」の号令でスタートしました。コースはふれあい広場から大丸デパート、天神交差点から明治通り（旧電車道）に入り、中洲、上川端商店街を経てキャナルシティ博多に向かいました。

持山理事長代行、アグネス・チャン

理事、こどもたちが「夢みるこどもキャンペーン」の横断幕を手に街頭に立ち、小雨の中を一時間ばかりで歩きました。沿道の市民の方々も、ハンドマイクから流れるキャンペーンの趣旨説明に耳を傾けながら、一行を温かく見守ってくれました。

また、あちこちで多くの市民の方々も、こどもたちが手にした募金箱に千円札や百円硬貨を入れて、励ましていただき、こどもたちやスタッフも大喜びでした。集まった浄財は約三万二千円で「夢の放送局」の中で、バンングラデシュの関係者にプレゼントしました。

キャナルシティ・噴水前広場で

「夢の放送局」

今年も「私のかねえたい夢」をテーマに、全国から作文七三〇点、イラスト三六九点が集まり、審査の結果、上位二十三人が入賞。四月には、福岡市中央区天神のアクロス福岡で「第四回こども会議」を開き、最優秀賞に福岡市博多区的那珂南小四年の平田恵美さん（一一）を選びました。

このとき、平田さんの作文の内容が「夢はニュースキャスターになって、学校でのいじめをなくすように呼びかけたい」ということから、今年のテーマを子供のための「夢の放送局づくり」と決定しました。

そこで、今年の七月二十四、二十五日に第四回目の「夢みるこどもキャンペーン」は福岡市のキャナルシティ博多のサンプラザ噴水前広場に臨時の「夢の放送局」を開局することに決定となりました。

初日の二十四日には全国から集まってきた作文・イラスト入賞者の十八人の子供たちが両親らとともに、休暇村・志賀島に一泊。夜は広場にファイヤーを焚き、自慢の歌や手話を披露したり、花火をしたりして親睦を深めました。

翌日は、あいにくの小雨でしたが福岡市の繁華街である天神に移動、持山彌之助・夢みるこども基金理事代行やアグネス・チャンさんらを先頭に、子供たちや、基金の関係者、一般の市民など約三〇〇人が福岡市役所前のふれあい広場を出発。大丸デパート前から渡辺通り、天神コア、福岡ビル、明治通り、玉屋デパート前、上川端商店街を経由してキャナルシティまでを歩きました。これには福岡市民の方達も驚いたようです。



川端商店街を行くラブウォーク

ば内輪でやってきたキャンペーンを一般の人たちにも知ってもらおうとの願いから、福岡市内の繁華街でラブウォークをしたあと、新名所キャナルシティ博多で「夢の放送局」を開局、二十一世紀を目指すことも私たちのメッセージを多くの人たちに発信しました。

そして念願だった、こどもたちとアグネスさんの共作ともいえる、キャンペーンのイメージソング「ドント・ストップ・マイ・ドリーム」と「傘の中の夢たちへ」の二曲入りのCDも完成。放送局の中で披露し、感動を呼びました。スタッフや関係者もキャンペーンが市民権を得たというような気持ちになったそうです。こどもたちの夢が果てしなく広がっていくように、キャンペーンも大きく広がるきっかけになれば、と思っています。

しかし、いずれにしてもこのキャンペーンを支えて頂いているのは、不要になった金属冠を送って頂いている歯科医院の方々です。皆さんのお力添えがなければキャンペーンは成り立ちません。

冒頭にキャンペーンが参加歯科医院は発足時の二倍になったと書きましたが、まだまだだと思っています。もつと多くの歯科医院の方々にかわってもらい、こどもたちの夢をもつと広げ、実現してあげられるネットワークを作りたいと思います。

そして間もなくやって来る二十一世紀を皆で希望に満ちたものにするようではありませんか。ご協力をお願い申し上げます。

国際色豊か

アジア太平洋こども会議のメンバーも参加

正午から「夢の放送局」を開局。筋ジストロフィーの少年バンド「G.A.O.H」は、一足早くサンプラザ広場で演奏を開始。キャナルシティのお客さんの足をぐっと引き止めるとともに、拍手を浴びていました。そこへラブウォークを終えたアグネス・チャンさんとFBS福岡放送局の浜崎正樹アナウンサーが登場。軽く盛り上げたあと、マイクをこの日のこどもキャスターである、平田恵美さん（一一）と、永山誠くん（一二）の二人にバトンタッチしました。

基金理事長代行の持山彌之助・福岡県歯科医師会会長が挨拶したあと、サポート役をアグネスさんと、浜崎アナウンサーが務め、こどもキャスターとともに、「夢の放送局」は一気に最高潮に達しました。

今年、アジア太平洋こども会議・イン福岡のメンバーも、このキャンペーンに賛同、バンングラデシュとラオスからやってきている子供たちが、民俗衣装を着て歌と踊りで特別参加してくれました。

基金は昨年バンングラデシュ・カラムデイ村に「夢みるこども基金学校」を建設するために、建設資金を寄贈していますが、今年もバンングラデシュと手をつなぐ会を通じて、ラブウォークで寄せられた募金を理事の一人、



民族衣装で踊りを披露するバンングラデシュの子供たち

梶明彦・日本航空株式会社福岡支店長が関係者に渡しました。

また、昨年に引き続きの事業の一つである、ネパール歯科医療協力会へ活動資金の贈呈。持山理事長代行から九州歯科大学助教授である中村修一氏へ贈られました。

筋ジストロフィー少年バンド「G.A.O.H」には、出演の協力に感謝して基金理事の佐知正道・福岡県歯科医師会副会長が記念品を贈り、メンバーにその気持ちを伝えました。

ステージでは、CD化されたばかりの、アグネス・チャン作詩・作曲による「ドント・ストップ・マイ・ドリーム」と、「こども会議」の出席者で、当時、埼玉県越谷市の大相模中三年だった坂本亜里さんが応募してくれた詩に、アグネスさんが手を加え、曲をつけた「傘の中の夢たちへ」の二曲を全員で歌い、最後は、こども宣言を発表したあと、キャナルシティの感動した観客の大拍手の中で終了しました。



手話を交えてキャンペーンのイメージソングを歌うアグネスさんと子供たち

'98夢みるこどもキャンペーンこども宣言

一人のこどもが作文に託した小さな夢が、多くの人たちの共感と協力で、大きくふくらみ、今日、私たちは福岡市に集い、夢みるこどもキャンペーンの四回目のイベント「夢の放送局」を開きました。

全国から集まった十八人の「こども会議」のメンバーの他、バングラデッシュとラオスの子供たち、難病と闘う筋ジストロフィーの少年バンド、地元の小中学生、そしてラブウォークに加わっていたいただいた多くの市民の方々、お互いに顔も知らない、言葉も違う、初めての出会いでしたが、私たちはすぐに心が通じ合いました。

みんな同じ心と、人を思いやる優しい心を持ち、それぞれの夢に向かって一生懸命生きているからだと思えます。私たちが今日、披露した夢みるこどもキャンペーンのイメージソングの中にもありますが、「夢とは自分で作るもの」「夢とはみんなでかなえるもの」です。

こどもも、大人も、夢があるから悲しいことやつらいことにも乗り越えて生きていけるのだと思えます。私たちは今日、ここに集い、多くの人たちと出会えて幸せでした。

私たちは一人ではありません。いつも夢に向かって生きていく多くの仲間がいることを実感しました。夢みるこどもキャンペーンはスタートしてまだ五年目です。キャンペーンの輪をさらに広げ、一人でも多くの人たちと手をたずさえて、一緒に大きな大きな夢をはぐくみ、間もなくやってくる二十一世紀を、すばらしい時代にしたいと思えます。

一九九八年七月二十五日
第四回夢みるこどもキャンペーン
「夢の放送局」

参加者一同

バングラデッシュ

「夢みるこども基金学校」建設進む 中間報告

昨年夏のイベントでバングラデッシュ・カラムディ村に「夢みるこども基金学校」を建設することが決定していましたが、ようやく現地の準備が整い、間もなく着工となります。

最初、一ドル一四円で建設費の見積りを立てていましたが、昨年の秋ごろから円相場が大きく変動し、じりじり円の価値が下がっていったので、相場を見守ることにしました。



「夢みるこども基金学校」の建設予定地(バングラデッシュ・カラムディ村で)

しかし、いっこうに回復せず、年度末にもなりましたので、結局今年三月三十日付、一ドル一三・四五銭の時点で二〇〇万円国際送金しました。

現地のNGO組織「シヨндаニ・シヨンスター」がお金を受け取ったのは四月も半ばでした。



カラムディ村は、首都ダッカからバスで八時間の所にあります。そこには約千三百人の小学生がいますが、洪水に見舞われても流れされない、頑丈な学校は二つしかないため、教室で学ぶことができるのは八百人だけ。他の五百人のこどもたちは学校に行けなかったり、ワラぶき屋根の学校で勉強しています。頑丈な学校というのは、レンガでできた建物です。

レンガは、雨期である六月から十一月までは生産されず、在庫も少ないので、その時期はとても高価になってしまいます。また、村には舗装されている道路がほとんど無く、雨期になるとぬかるんだりして、トラックで建設資材を運ぶのも、日本

のように簡単にはいきません。

このような理由から、「シヨндаニ・シヨンスター」は一九九九年一月(現地は一月に学校が始まります。)に開校できないと判断し、やむを得ず建設を遅らせることにしました。

十一月末には新しいレンガも作られ、砂や他の建設資材も雨期の時よりも、安く購入することができるようになりました。乾期に壁や屋根を作っておき、内装はその後ゆっくり行えばよいのです。そして一九九九年十二月末に落成式を行い、二〇〇〇年一月に「夢みるこども基金学校」を開校する予定です。



当初の計画では、二〇〇万円程度で教室を建設することになっていましたが、為替の都合で、一六五万円の価値になってしまいました。これでは計画通りにいくのは困難で、「夢みるこども基金」では平成十年度も二回目の寄付を行うことにしています。

また、バングラデッシュでは、義務教育は小学校五年間となっていますので、将来的には残りの一教室と図

夢みることも基金理事



アグネス・チャン

「夢をみることに」それは、こどもたちにとつて一番大切なことです。

夢みることもキャンペーンは「こどもたちに夢を——」をスローガンにスタートし、今年5年目を迎えました。歯科医院の皆様を中心に、協賛企業、ボランティアなど、たくさんの方々を支えられ、徐々にその輪をひろげつつあります。

今年も、多くの人たちにキャンペーンをアピールするため、福岡市の中心で「ラブウォーク」と「夢の放送局」を開きました。

私は第一回から第四回までこのキャンペーンの「こども会議」とイベントにかかわってきましたが、始めは恥ずかしそうにしているこどもたちが一生懸命、自分たちの夢を話してくれたり、何かに打ち込んでいる姿を見るたびに、胸の奥が熱くなります。

現代の社会には、こどもたちに関する辛い悲しい出来事が数々起こっています。世界を視野に入れると、事態はもっと深刻です。しかし、二十一世紀を背負っていくこどもたちには、それらに打ち勝って夢を育み実現させていく勇氣を持ってもらいたいと思います。キャンペーンの輪がさらに広がって、少しでも多くのこどもたち、そしておとなたちが「夢みる心」の大切さに気づくよう、願っています。

私も精一杯、力を尽くして頑張ります。歯科医院を始めとする皆様にも、より一層のご支援を心よりお願い致します。

書室、職員室を建設できればと考えています。



今年七月から八月にかけて一カ月

間バンングラデシユのカラムディ村に行ってきたときに、「シヨンダニ・シヨンスタ」のメンバーと一緒に学校建設予定地を見学しました。周りには、郡役場をはじめ、住宅地、女子高校、短大などが建っており、畑や竹林といった自然も十分あるので、子供たちものびのびと勉強や遊びに励むことができる環境です。

「シヨンダニ・シヨンスタ」のメンバーに建設に向けて、力を尽くしあらゆる準備を行ってもらうように、お願いしてきました。建設予定地の付近の住民たちは、子供たちも含め学校ができるのを楽しみに待っているようでした。日本に帰国する前に、何人かの子供たちの保護者に会い、学校の将来や展望について話し合ってきましたが、その中で皆、長い間この学校を待ちつづけていたように感じました。

「バンングラデシユと手をつなぐ会」

ラフマン・モクレスール

(博多高等学校・英語教師)

診療を続け十年目を迎えて

ネパール歯科医療協力会

理事長 中村 修一

(九州歯科大学助教授)

本会はネパール王国で、歯科保健医療活動を物心両面から支援すると共に派遣隊員の募集なども行っているNGOです。具体的には無医村で歯の治療をしたりブラッシングの指導をしたりといったものを中心に活動していますが、近年は予防活動や健康全般に活動の幅を広げています。

一九八九年に活動を始めたころは、生まれて初めて歯医者にかかる人がほとんどで、心を開いてくれるまで時間はかかりましたが、何度も足を運ぶうちに笑顔で診療を受けてくれるようになりました。

このような活動の趣旨に賛同していただき、夢みるこども基金様から平成九年と十年に助成金として三十万円ずつ寄付をいただいております。活動資金は会員による会費と海外事業については隊員の自己負担で賄っている状態で、年間三十万の寄付をいただいたことで本会の活動を続けるにあたり、大変助かっております。参加登録していらっしゃる



ブラッシング実習中のテチョー村の小学生

歯科医院の皆様を始め、関係者の皆様には大変感謝致しております。誠にありがとうございます。これからはますますキャンペーンの輪が広がっていきますよう、応援しています。私たちがネパール歯科医療協力会も先進国からの一方的な援助にならないよう、現地の学校教諭を対象に、歯科保健専門家の養成などに力を入れて住民の自立を目指していきたいと考えています。今年も十二月二十六日から一月七日にかけて、三十八人の隊員が診療に参加する予定です。

九州デンタルショーと九州歯科医学大会へ出展

事務局では、たくさんの方々にはキャンペーンのことを知ってもらおうと、年間を通じて様々な広報活動を展開しています。中でも九州デンタルショーと九州歯科医学大会へは、毎年出展しています。平成十年五月十六日―十七日に、福岡国際センターで開催された九州デンタルショーには、歯科医療に関連した企業がたくさん出展していて、「夢みる子ども基金」でも福岡県歯科医師会の向かい側にコーナーを設けました。

今までの活動状況を写したパネルやポスター、夢みる子ども基金のあゆみを展示した他、「こども会議」と夏のイベントをまとめたビデオの放映を行いました。特にビデオは皆さんの興味を引いたようでした。夢みる子どもキャンペーンに参加登録していただいている、歯医者さんたちも立ち寄り、色々なご意見をいただきました。

この出展が参加登録歯科医院と事務局との交流の場であることを認識するとともに改めて、心ある方々がたくさんいてくださるお陰で、このキャンペーンが成り立っているのだと、感謝の気持ちがいっぱいでも忘れないようにしなければと思います。また、十三件の歯医者さんに新しく参加登録をしていただきました。

また、鹿児島県文化センターで平成九年十月二十五日―二十六日に行われた九州歯科医学大会にも出展し、キャンペーンのPRをすることができました。

「夢の放送局」を終えて

今年も全国各地から、こども会議のメンバー十八人がやって来ました。少し緊

張気味の顔をしていましたが、キャンプファイヤー、花火そしてキャンペーンの歌の練習などをしているうちに、こどもたちも同志もすっかり打ち解けたようでした。今年は、一日目に交流会を行ったのがよかったのかもしれない。

二日目のラブウォーク、キャナルシティでの「夢の放送局」もそれぞれが個性を発揮してくれ、素晴らしいものになりました。

二日間の日程が無事に終了し、笑顔で帰っていくこどもたちを見てみると、それまでの辛かったこと、きつかったことを忘れさせてくれました。こどもたちの夢をすべてかなえてあげるのには難しいですが、少しでも近づいていけるように、そしてその輪が広がっていくように、頑張っていきたいと改めて感じました。二十一世紀はもう遠い未来の話ではなく、だんだん住みにくい時代がやってくるかもしれない。しかし、こども

もたちには今の素直な心を忘れることなく大人になっていってほしいと思います。そのためにも大人が、こどもの時の純粋で優しい気持ちを思い出すように、「夢みる子どもキャンペーン」のことを多くの人に知ってもらいたいと思っています。

事務局 熊添 輪歌子

お便りのコーナー

七月二十四日、二十五日に参加してくれた方達からお礼と喜びのお便りがたくさん届きました。

ここで簡単に紹介してみたいと思います。福岡県愛宕浜小学校五年の網谷舞実さんが一番でした。「東京からきたお友達ともなかよくできました。キャンプファイヤー、花火、放送局もとても楽しい思い出になりました。わたしも自分の夢に向けて、がんばろうと思います」と、頼もしいお便り

りでした。

「夢の放送局」で、手話を交えながら歌を披露してくれた、石川県平和町養護学校中学部一年の三宅由季さんからも届いています。「歌を歌う前はすごく緊張していたけど、はじめたら本当の歌手になったような気がして、すごく気持ちよかったです。」傘の中の夢たちへの時は、アグネス・チャンさんも一緒に歌っていただいたので、すごく心強かったです。(中略)飛行機に乗ったのは、初めてだったのでうれしかったです。福岡の町に行っても車椅子でも、いろんな所に移動しやすかったです。」

また、三宅さんの学校の箸本淳也先生からは「こども会議、夏のイベントとこどもたちにとって、貴重な大きな経験になりました。この旅で得られたものは図り知れません。(中略)学校でもこれをきっかけに手話を始めたり、この活動で夢をみることに努力することの大切さを学びました。また、このような素晴らしい活動を全国のこどもたちに広げていってください。」というお便りをいただきました。

島根県から来てくれた、高角小学校五年の渡部綾さんからも、「バスに乗っているとき胸がわくわくしてたまりませんでした。『夢の放送局』で、練習した歌と手話をひろうしました。やっぱりすごくドキドキしました。でも上手にできてよかったです。(中略)この会に参加できてアグネス・チャンさんと会えたり、いろんな所のお友達と会えたりして、とてもいい思い出になりました。」と、うれしいお便りを送ってくれました。

「夢の放送局」に参加できなかった佐賀県の鹿島小学校五年、西村友作くん、西村くんのご両親からいただいたお便りです。手紙が届くたびに事務局スタッフ一同、心が温まる気持ちでいっぱいになりました。お便り本当にありがとうございました。



九州歯科医学大会に出展の「夢見る子どもキャンペーンコーナー」(鹿児島県文化センターで)